

新しい栃木の創生を

初心

2025年新春号

令和7年1月発行
年2回刊
題字/福田富一 書

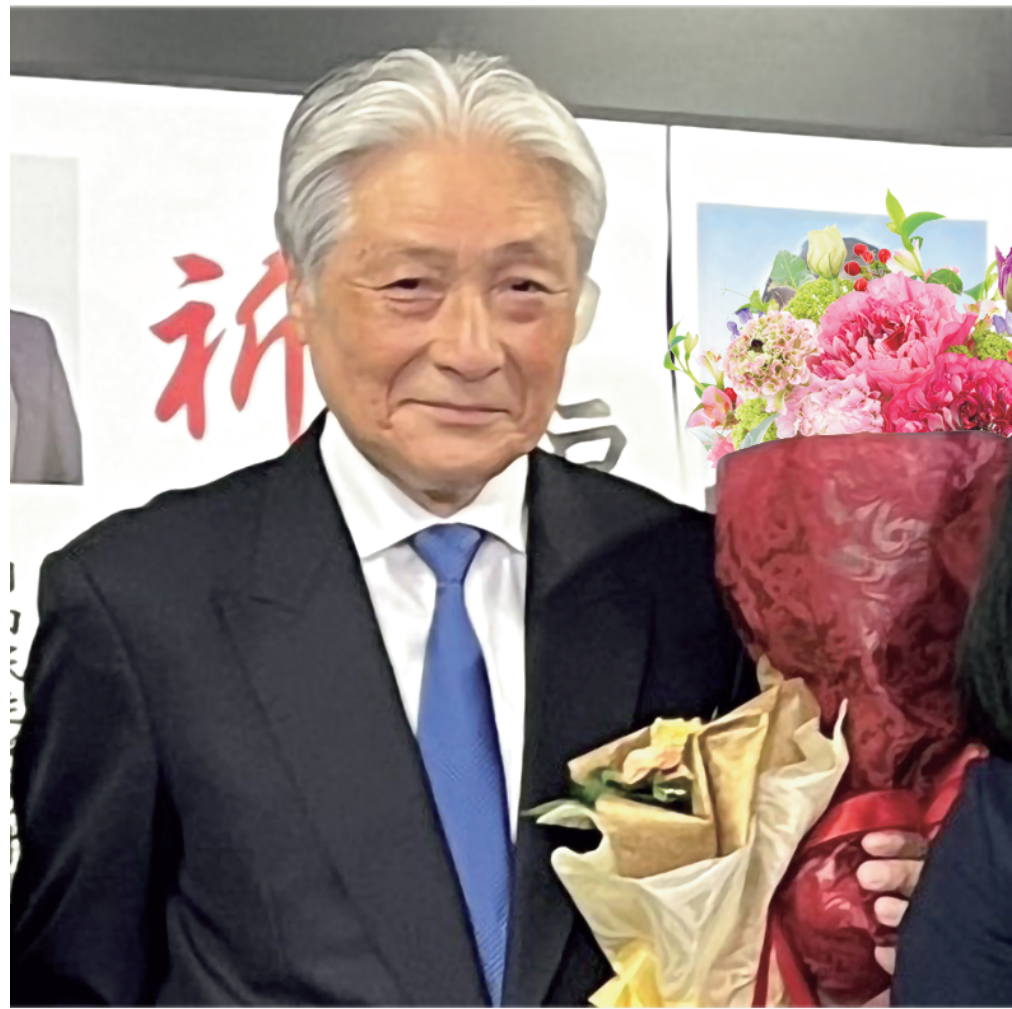
<発行所>
福田富一
暮しと政治研究所
〒320-0026
宇都宮市馬場通り2丁目1番12号
TEL 028(633)1111
http://www.tomikazu.com

「令和7乙巳(きのとみ)年を迎えて！」

栃木県知事 福田富一

新しい「乙巳」の年を皆様にはご家族そろって明るくお迎えになられたこととお慶び申し上げます。脱皮を繰り返す蛇は、新しい自分に生まれ変わる象徴であり、再生・

変革・発展・繁栄は私たちが求め続けているものでもあります。誰もが希望と幸せを実感できる新しい栃木の創生を力強く進めて参りたいと思います。



《6期目を迎えて》

多くの関係者の意見を伺った末に、立候補の意思を固め、県内各地の皆様からの暖かいご支援をいただき選挙を乗り越えることができました。改めて心より御礼申し上げます。2024年12月9日から新たな任期がスタートしました。選挙期間中にお聞きしてきた県政の課題、すなわち農林業の振興や担い手育成、人口減少対策、高齢者の生活支援等この4年の中で道筋をしっかりとつけていきます。

《今年の方針》

県政は「少子化対策と人づくり・女性活躍の推進によるとちぎの未来創生」「地域経済の好循環創出」「DXによる安全・安心で暮らしやすいとちぎづくり」の3つの重点事項を掲げ推進しております。

《社会の変革》

人口増加の時代は、労働力と需要規模が拡大するため、個々が集団での役割を果たすことで経済発展を遂げて参りました。そこには序列と画一性が重要な価値を果たしてきました。

現在の人口減少の局面では、デジタル技術も駆使しながら若者・男性・女性・高齢者・障害者・外国人等あらゆる主体の多様な能力を最大限生かし切り、新たな価値と活力を生み出していかねばなりません。

《県民・職員とともに・取り組みの姿勢》

(1) 挑戦
国内外ともに大きく情勢が変化する中、時流を的確につかみ、追い風としなければなりません。そこで「スピード感」「的確なレスポンス」「パフォーマンスの最大化」を強く意識し、新しい仕組みを創って参ります。

(2) 協力
そこには、栃木県から国を動かしていくという強い気持ちで進取果敢に挑戦して参ります。

多様性から力強いうねりを起こしていくためには、立場が異なる人達と目的を共有し、協働することが不可欠です。県政運営の原点「対話と協調」「県民中心」「市町村重視」を改めて徹底し、官民連携を一層強化して参ります。

(3) 意識改革

職員に対しては「名刺を2枚以上持て」と言い続けて参りましたが、県民誰もがそうやってくれることが理想です。インベーションを起こしていくために、個人的多様性(イントラパーソナル・ダイバシティ)が重要となります。

デジタル技術やグローバル化が進展し、多彩な情報等へのアクセスが容易な社会に加え働き方改革で生産性の高まりや、仕事以外の時間の確保もし易くなってきました。「組織に頼る」から脱し様々な世界に飛び込んで多様な経

験・価値観・能力を培い、相乗効果を高めながら、一人ひとりがインベーションの主体組織の牽引役になることを目指して参ります。

(4) 健康管理
人口減少社会に立ち向かう鍵の一つに健康寿命の延伸があります。自分自身の責任として健康管理に務め「元気なとちぎ」を創って参りましょう。

《年末年始に思ったこと》

(1) 超高齢社会ならではの坂「と名前が付いているあるゴルフ場のホールを知ったことだ。年金受給頃からその坂を打球が越えなくなったことから言い伝えられるようだ。

(2) 働き方改革では、お正月の神社仏閣での縁起物等の販売時間が17時までとのアナウンスで知ることができた。

(3) 少子化では、ある団体の新年会に県外から出席された方の言葉である。LRTに乗車すべく早めに来県されたそう。その際車輦内外で家族連れや多くの子どもの歓声に接し、驚きとともに久しぶり新鮮さを感じることできたことである。

時代はスピードを上げて変化しているが、不易流行の取捨選択を誤ることのないよう世界と足元の現場をしっかりと見て対応する年として参りたい。尚一層のお力添えを宜しくお願い致します。

未来に夢や希望を

福田知事 初登庁



「県民に近い県政目指す」

11月19日、福田富一知事は、県民目当選後初めて登庁した。幹部への訓示では、県民目の徹底と前例にとらわれな線に挑戦などを指示した。多選ロビーに入ると拍手で出迎えた県議や県職員ら約170人に一礼し、花束を受け取った。あいさつでは、選挙中に有権者から寄せられた農業や観光業の課題を紹介。「克服するため、スピード感を持ってレスポンス(反応)を早くし、最大のパフォーマンス(成果)を発揮する」と強調した。

幹部への訓示では、県民目の徹底と前例にとらわれな線に挑戦などを指示した。多選批判に触れ「職員による私への付度を懸念する声がある。緊張感を持って業務に当たってほしい」と述べた。午後には就任記者会見に臨み「県民と距離の近い県政を目指す。未来に夢や希望を持つことができ、豊かさや幸せを実感できるとちぎぎを実現し次世代に引き継いでいく」と語った。

県とホンダスポーツ振興等で連携協定

スポーツ振興やスポーツによる地域活性化などを目指し、県とホンダ(東京都港区)は11月21日、連携協定を締結した。同社はラグビーの国内最高峰リーグ「リーグワン」1部で活動し2026年、27年シーズンを目途に宇都宮市へ活動拠点を移転する三重ホンダヒート、ソフトボール女子JDリーグで芳賀町を本拠地とするホンダリヴェルタを抱えており、それぞれのチームを生かした取り組みを進める。県庁で行われた締結式で、小澤学同社常務と福田知事が協定書を取り交わした。小澤常務は「志しを高く持ち、活動を強化していきたい」と意気込みを語り、福田知事は「(協定は)県民に夢や希望、多くの感動をもたらし、地域の活性化にも寄与する。円滑な移転に積極的に取り組むたい」と話した。



協定書を取り交わしたホンダヒートの小澤最高顧問(右)と福田知事(左) 21日午後、県庁

レスリング鏡選手に県民栄誉賞授与

競泳男子松下選手に知事特別表彰授与

県は10月1日、パリ五輪レスリング女子76kg級金メダリストの鏡優翔(ゆうか)選手(23)に宇都宮市出身、サントリに県民栄誉賞を、競泳男子400m個人メドレー銀メダリストの松下知之選手(19)に宇都宮市出身、東洋大に知事特別表彰の県スポーツ功労賞を授与した。授与式が県庁で行われ、福田知事から表彰状と記念品が手渡され、JA全農とちぎからは県産米「とちぎの星」など県産農畜産物も2人に贈られた。

県民栄誉賞は東京五輪柔道男子60kg級で金メダルに輝いた下野市出身の高藤直寿選手(パーク24)以来9人目。県スポーツ功労賞は延べ36人目で、共に初受賞となった。鏡選手は「小1から中2まで過ごした思い出の地に凱旋でき、素晴らしい賞をいただき、素晴らしい賞をいただき、光栄」、松下選手は「地元栃木には強い思いがある。県民の皆さんに応援いただいていることを強く感じた」とな



知事特別表彰を受賞した松下選手(左)



県民栄誉賞を受賞した鏡選手(左)

競泳男子水沼選手に知事特別表彰授与

陸上男子佐藤選手に知事特別表彰授与

県は9月17日、パリ五輪競泳男子100mバタフライで8位に入賞した真岡市出身の水沼尚樹選手(27)に新潟医療福祉大職員に知事特別表彰の県スポーツ功労賞を授与した。水沼選手の受賞は3回目。授与式では県民の熱い応援に感謝し「次はメダルをかけて表彰されたい」と抱負を語った。福田知事は「今後の活躍を期待しています」と激励し表彰状と記念品を授与。JA全農とちぎからは「とちぎの星」50kgが贈られた。

県は10月29日、パリ五輪陸上男子1600mバリアー日本代表として6位入賞に貢献した佐藤風雅選手(28)に作新学院大出、ミズノに知事特別表彰の県スポーツ功労賞を授与した。県庁で授与式が行われ、福田知事から表彰状と記念品が手渡され、JA全農とちぎから「とちぎの星」など県産農畜産物が贈られた。佐藤選



知事特別表彰を受賞した佐藤選手(右)



知事特別表彰を受賞した水沼選手(左)

豊かさや幸せを実感できるとちぎへ

このページは、下野新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、東京新聞、日本経済新聞、の記事を抜粋させていたいただきます。

訪日客の農村誘客促進 関東地方知事会



会議で発言する福田知事=10月23日午後、東京都千代田区

本県の福田知事は新型コロナウイルス感染症の5類移行後、インバウンド需要が急激に拡大していることに触れ「好機と捉え、農山漁村地域での外国人の受け入れ態勢の整備で、誘客と農林水産物・食品の輸出拡大につなげていくことが重要」と指摘。受け入れ態勢強化のため「デジタル田園都市国家構想交付金や農山漁村振興交付金の十分な財源の確保や支援内容の充実」を国へ求めるべきだと提案した。

脱炭素 地方支援求める 政府主催全国知事会議

11月25日開かれた政府主催の全国知事会議で、全国知事会の脱炭素・



政府主催の全国知事会議で発言する福田知事=11月25日、総理官邸

地球温暖化対策本部長を務める福田知事は、温室効果ガス排出量を実質ゼロにするカーボンニュートラルの2050年実現に向け、地方への政府支援の拡充などを要望した。福田知事は、議論が進められている「地球温暖化対策計画」に関し、

地域脱炭素移行 国に加速化要請

福田知事は12月10日、全国知事会の脱炭素・地球温暖化対策本部長として環境、経済産業、総務の3省を訪れ、地域脱炭素移行の加速化に向けた提言に関する要請活動を行った。

人口減少などについて意見交換

知事と語ろう！とちぎ元気フォーラムin足利

福田富一知事と県民が、県政や地域の課題などについて直接対話する「知事と語ろう！とちぎ元気フォーラムin足利」が8月31日、あしかがフラワーパークプラザで約60人が参加して開かれ、少子化問題や、人口減少対策などについて意見交換した。福田知事はまず県政の話題として昨年度、本県の移住支援相談件数や工場立地面積が全国上位だったことなどを挙げた。県民の命と健康を守るための地域医療で、慶応大医学部と創設する「地域枠」にも触れながら、「選ばれるとちぎに少しずつなっている」といった認識を示した。参加者との意見交換では、少子高齢化に伴う人口減少への対応についての質問が多く寄せられ、福田知事は「子育て世代の負担軽減を図る」などとして、第2子の保育料免除と



五十嵐政務官(左)へ提言書を手渡した福田知事=12月10日午後、環境省



全国知事会議in福井で集合写真=8月1日、福井市

東奔西走の日々

- ◇8月1日 全国知事会議in福井(上記写真) / 福田知事は幼児教育・保育の完全無償化を訴え「無償化はどこに住んでも等しく享受されるべきだ。国の責任で、世帯の所得や構成を問わずに実現するよう強く要望する」と述べた。
- ◇8月5日 東京・九段南のインド大使館で「栃木デー」交流促進 / 本県の魅力PR。
- ◇8月21日 国土交通省などを訪問 / 県内道路の整備促進を要望。他に全国知事会脱炭素・地球温暖化対策本部長兼環境・エネルギー常任委員長として環境省と経済産業省も訪れ、脱炭素社会の実現に向けた対策の推進に関する提言書などを提出する。
- ◇9月14日 知事と語ろう！とちぎ元気フォーラムin大田原 / 少子化対策などで意見交換。
- ◇9月24日 秋の交通安全県民総ぐるみ運動 / 宇都宮市江曾島町の交差点で立哨活動を行う。「街頭で姿を見ることが重要」と福田知事。
- ◇10月24日 東京都内で「県産銘柄牛懇談会」 / 県産銘柄牛の魅力PR。
- ◇10月25日 宇都宮工業団地総合管理協会と意見交換会 / 生産性向上につながる設備投資に取り組む中小企業などに持続的賃上げ環境整備を支援。
- ◇11月25日 環境省の中央環境審議会と経産省の産業構造審議会脱炭素関連会議出席 / 全国知事会の意向を示す。
- ◇11月26日 都内で「モンゴルの日」祝賀レセプションに出席。
- ◇11月26日 都内で豊洲の千客万来を視察。
- ◇12月2日 日光市内のホテルで開催された「日光の社寺」世界遺産登録25周年記念祝賀会に出席する。
- ◇12月6日 宇都宮市のオリオン通り周辺で年末特別パトロールを実施。
- ◇12月12日 フィンランドのロバニエミ市から公認サントクロースが表敬訪問 / 「本場のサントタさんに会えて光栄」と福田知事。



足利市で開催された「知事と語ろう！とちぎ元気フォーラムin足利」で、福田知事は「知事と語ろう！とちぎ元気フォーラムin足利」31日午後、足利市朝倉町

福田富一知事 6期目当選

「地域の課題」「迅速に解決」



6期目の当選を果たし花束を受け取る福田富一知事(左)17日夜、宇都宮市戸祭町

2024年11月17日投票の知事選で41万3985票を獲得し、県政初の6選を果たした。

SNS駆使し 支持訴え

福田知事は今回の選挙で、県政や知事選を身近に感じてもらおうと、SNS「インスタグラム」で情報発信した。日常生活や政治への思いなどを栃木弁で語る短い動画は、計180万回以上再生された。動画はポップなデザインの字幕をつけ、倍速で投稿。「タイムパフォーマー」(タイムパフォーマンス)とされる若年層を意識した。福田知事は「新たな手法を取り入れ、各世代の皆さんに徐々に浸透することができた」と手応えを語っている。インスタグラムは継続しています。ぜひご覧ください。

「明るい未来創生」 知事が所信表明

した福田富一知事は「皆様のおかげで選挙を勝ち取ることができた。心から御礼を申し上げます」と感謝の言葉を述べ、「5期20年の多選批判が争点の一つだったが、地域の抱える課題を迅速に解決していくことを約束しながら支援をお願いしてきた。約束を果たせるよう明日から取り組んでいきたい」「国際情勢が緊迫化する中、生活に密接に関わる問題を国、県、市町が互いに分担をして県政の中で対策を講じ、しっかりと基盤を作っていく」と意気込んだ。

県議会12月通常議事が12月10日開会し、福田知事はこの日所信表明を行い「市町との緊密な連携のもと、本県の実情に即した各種施策を積極的かつ戦略的に展開し、栃木の明るい未来を創生していく」と述べた。

12日の代表質問で福田知事は知事選の政策集で掲げた、人口減少問題の課題解決に向けた官民連携の「(仮称)人口未来会議」の設置や、若者の提案を政策に反映するための「(仮称)若者会議」の設置などを表明した。

取材で25年をどんな1年にしたいか漢字1文字で問われた福田知事は、新しい価値観を元に新たな取り組みを進める元年の年。更に新たな価値を創造していくということ、今年漢字に「創」という字を選んだ。

今年の漢字は「創」

インスタ動画 計180万回再生



元気の源！カウ丼を食べる

散髪シーン、頭をはぎってもらう

大切なお友達！愛犬登場！マー君とスキンシップ！



実家の田んぼの草刈りこんなもんかな！

懐かしの焼きそばを買って「この焼きそばうまいだよ」

アフリカダンスを踊る「楽しいよ」

「福田家の茶の間」

昨年の知事選挙では大変お世話になりました。政治生活42年目を迎え13回目の選挙でした。

多選の是非を問われた今回の選挙は、これまでとは様相が違っていた。夫は「どんな選挙でも全力で」と県内各地区を回って支持を訴え、私は宇都宮を中心にご挨拶に歩いた。「まだやるの？」「何もしなくても大丈夫でしょ」などと言われる中、「一生懸命頑張りますから」「必ず選挙に行ってください



いね」とお願いする私を、多くの方は温かく迎えて下さり、励まして頂いた。夫には「福田で良かった」と思ってもらえるように、健康に留意して、頑張っと思っています。

元旦は夫と共に皇居・正殿松の間での「新年祝賀の儀」に参列した。まだ夜が明けぬ早朝に起床し元旦の食卓の準備をして近所の美容室に出掛けた。まもなく白みはじめた東の空から太陽が昇ってきた。「こ

で初日の出が見える」と感動し、思わず手を合わせた。コロナ禍の影響で2人揃っての参列は5年ぶりだったが、再選後ということで感慨深く、気持ちを新たに新年の幕開けとなった。

我が家では正月3が日は神社やお寺にお参りするのが習慣になっており、皇居から帰宅後家族そろって初詣に出かけ、昨年の感謝と新しい1年の幸せを祈願した(写真は日光二荒山神社前)。

12月31日の暮れに生まれた男孫ちゃん人見知りやが激しく、私たちの顔を見ると大泣きしていたが、この日は「抱っこ抱っこ」と手を伸ばしてきて、私が抱き上げると嬉しそうにキョキキョキと笑った。新年早々、孫ちゃんの笑顔にほっこりさせられた。

「縦(眉間)のシワは幸せが逃げる。幸せを呼ぶのは横(目尻)のシワ。笑顔が幸せを呼ぶから、いつも笑顔で！」

皆様笑顔で健やかに過ごせる1年となりますように！

編集後記

昨年知事選挙は「無効票を投じた人にも『福田で良かった』と思ってもらえる県政を行っていき

たい」と語っている。「初心」は、知事の県政への取り組みや日々の出来事などをまとめてお届けします。どうぞ一読下さい。

◆福田富一後援会総連合会事務所
◆福田富一暮らしと政治研究所
宇都宮市馬場通り2-11-12
電話 028(6333)1111
FAX 028(6333)1110